

実態把握と目標設定	• 学部	小
	• 学年	低
	• 対象児童生徒の障害	□知的障害、□自閉症、□LD（学習障害）、□ADHD（注意欠陥・多動性障害）、 □情緒障害、□視覚障害、□聴覚障害、 ■その他（ダウン症）
	• 対象児童生徒の課題	課題： 食事に対する意欲はあるが、食べ物をあるだけ口につめこんでしまう。
	• 自立活動の目標	食事を一口ずつ食べられるようになる。
	• 上記目標に対応する区分	健康の保持 心理的な安定 人間関係の形成 環境の把握 身体の動き コミュニケーション
	• 支援の手立て	<ul style="list-style-type: none"> • 1口ずつ食べる経験を積めるように、1口分ずつ皿に入れ、本児が飲み込めば次の物を入れる。 • 上記の事が定着すれば、言葉かけで1さじ分ずつ食べられよう、3口分程度の量を皿に入れ、「口の中が空っぽになってから」などの言葉かけをする。 • 食パンをかじりとして1口分を学習できるように、スティック状に切る。
1学期の振り返り	• 児童生徒の様子、変化、課題	<ul style="list-style-type: none"> • 朝の身支度後の1日の中で比較的落ち着いている時間では、水筒のコップを使ってひとりでほとんどこぼすことなく、お茶を飲むことができた。コップの傾きを調整しながら、一口ずつコップに含んでいた。 • 食パンの練習では、早く食べたい気持ちが強すぎて、力づくで一気に食べようとするが多かった。
	• 教員自身の成果や課題 • 効果的だった支援の実践方法等	<ul style="list-style-type: none"> • 本児が実際に体感することで調整する力に結び付くと思うが、そう（口の中がいっぱいで飲み込みにくいなど）ならないよう、教員が調整してしまっていた。 • 本児の情緒が安定している環境では、自身で集中してこぼさないようにしたり、教員の言葉かけで噛むことを意識できたりした。

グループ 討議	<u>全校研究②学年・クラスで検討</u> ・参考になった支援方法等	・一口食べたら、スプーンを置くように言葉かけする。
2学期の 振り返り	・児童生徒の様子、変化 ・教員自身の成果や課題 ・効果的だった支援の実践方法等	・スティック状のパンをかじり取る練習を積み重ねていると、1本を詰め込むことが減り、1口分をかじり取る姿が見られるようになってきた。 ・牛乳を飲む際のコップを、水筒の小さなコップに替えることで、こぼすことが少なくなった。 ・「口の中の物がなくなったら教員に声をかける」というルールを伝え、口の中を空にして飲み込むという意識が芽生えつつある。
まとめ	<u>全校研究③学年・クラスで検討</u> ・児童生徒の来年度の目標、課題等	・教員からの言葉かけと見守りのみで、自分で食べる量とスピードをコントロールできるようになる。

実態把握と目標設定	• 学部	小					
	• 学年	低					
	• 対象児童生徒の障害	<input type="checkbox"/> 知的障害、 <input checked="" type="checkbox"/> 自閉症、 <input type="checkbox"/> LD（学習障害）、 <input checked="" type="checkbox"/> ADHD（注意欠陥・多動性障害）、 <input type="checkbox"/> 情緒障害、 <input type="checkbox"/> 視覚障害、 <input type="checkbox"/> 聴覚障害、 <input type="checkbox"/> その他（ ）					
	• 対象児童生徒の課題	偏食について 4月に転入してきた児童で、前籍校では給食をほとんど食べていなかった。好きな食べ物は、白米、パン、フライドポテト、からあげ、カレーのルーである。					
	• 自立活動の目標	食べることができる食材を増やす					
	• 上記目標に対応する区分	<table border="0"> <tr> <td><u>健康の保持</u></td> <td>心理的な安定</td> <td>人間関係の形成</td> </tr> <tr> <td>環境の把握</td> <td>身体の動き</td> <td>コミュニケーション</td> </tr> </table>	<u>健康の保持</u>	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き
<u>健康の保持</u>	心理的な安定	人間関係の形成					
環境の把握	身体の動き	コミュニケーション					
• 支援の手立て	<ul style="list-style-type: none"> • 朝の会の献立発表では、給食に入っている食材をすべて説明する。 • 配膳の際には、本人に食べられる量や配膳の仕方を確認する（丼の具やカレーのルーをかけるかどうか、おかずを切るかどうか、汁物の具をどの程度入れるか等）。 • 自分で決めて食べるという状況を大切にし、食べる順番や大きさ・量などを本人が選べるようにする。 • 食が進まない場合は、家から持参している器に、食べられる量を自分で入れるように促す。 • 教員とのやり取りを通して、食材に対する興味や親しみをもてるように支援する。 • 一かけらでも口に入れることができた場合は、その行動を明確にほめる。 						
1学期の振り返り	• 児童生徒の様子、変化、課題	好きな食材（白米・パン）は、はじめから抵抗なく食べることができていた。野菜については、ニンジンや玉ねぎなど毎日提供される食材を一かけらずつ食べることからスタートし、徐々に量が増えていった。また、汁物全般に自信をもつようになり、自分から挑戦しようとする気持ちが芽生えてきた。7月頃には、メニューによっては完食できる日も数日見られた。一方で、気持ちの状態や献立内容によって食が進まない日もあるため、安定して食事を摂れるようにすることが今後の課題である。					

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教員自身の成果や課題 ・ 効果的だった支援の実践方法等 	<ul style="list-style-type: none"> ・ やりとりをしながら本人の気持ちを大切にし、無理のない範囲で進めたことで、良い状況につながった。一方で、食事に気持ちが向くまでに時間がかかるため、給食時間内に食べ終わられないこともあった。本人が必要とする時間を十分に確保することが難しい場面がある。 ・ 配膳の際には、食べられる量や食材を確認し、可能であれば本人が自分で配膳できるよう支援した。そのうえで、さらに別皿に一かけらずつ取り分けるようにした。苦手な食材については、「これがラスボス」など本人の世界観に合わせた言葉かけで励まし、新しい食材を食べられたときや完食できたときには、クラス全体で喜びを共有した。
グループ討議	<p><u>全校研究②学年・クラスで検討</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 参考になった支援方法等 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本人の気持ちに寄り添った言葉かけや、答えやすい質問の仕方を工夫する。 ・ 食事に時間がかかることが多いため、「何分までに」「どのくらい食べるか」を本人と相談して決め、見通しをもって食事が進むようにする。
2学期の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童生徒の様子、変化 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 汁物とおかずを自分で盛り付け、配膳した量は最後まで食べ切ることができるようになった。汁物に入っている食材については、自信をもって食べる姿が見られるようになってきている。 ・ 食事のマナー（食器を持つ、手で食べない等）についての言葉かけを受け入れ、意識して取り組むことができるようになった。 ・ 食べる時間を自分で意識しながら、見通しをもって食事を進める姿が見られるようになった。
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教員自身の成果や課題 ・ 効果的だった支援の実践方法等 	<p>理解力の高い児童であるため、自分で配膳し、量や食材を自ら選択できる場面を設定することが効果的であった。また、他の活動も含めて「自信をもつ」「課題に向き合う」ことができるようになると、給食も含めて全体的な成長につながる。さらに、過度な言葉かけや励ましは控え、本人の気持ちを尊重しながら見守ることが重要である。</p>
まとめ	<p><u>全校研究③学年・クラスで検討</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 児童生徒の来年度の目標、課題等 	<p>給食に関しては継続して取り組み、苦手な食材も食べる量を増やしていくことが課題である。また、丼は白米と具材を別に食べていたが、少量ずつ具材をかけて食べるよう取り組み始めている。他の活動では、苦手な課題に向き合う経験を積み、困ったときにどうしたいかを伝える力を伸ばしていくことが目標である。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教員自身の成果や課題 ・ 効果的だった支援の実践方法等 	<p>成果：児童との駆け引きの仕方やタイミングを考える機会が増えた。</p> <p>課題：児童が自ら水分摂取をしようと思えるような言葉かけの仕方を考えていく。</p> <p>実践：一度水分摂取をするたびに、児童が気持ちを安定しながら取り組むことができるよう時間を空ける。</p>
グループ討議	<p><u>全校研究②学年・クラスで検討</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 参考になった支援方法等 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童の興味がある活動を提示しながら、水分摂取を促す。 ・ 「どこでも」「誰とでも」取り組めるよう、教員や場所等を変えながら水分摂取を行なう。 ・ 児童が好きなメニューで駆け引きをしながらスープや牛乳の喫食に取り組む。
2学期の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童生徒の様子、変化 	<p>様子：給食のスープを毎食5口以上はスプーンで口にできるようになった。また、メニューによっては自らスプーンやお椀を持ってスープを口にできる日もあった。</p> <p>水分摂取時には、自らコップに注ぎ、水を飲むことができるようになってきた。1回の水分摂取で2回～3回に分けて飲むこともできるようになった。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教員自身の成果や課題 ・ 効果的だった支援の実践方法等 	<p>成果：毎日決まったタイミングで取り組み、児童が自発的に動けるよう、その時の状況に応じて言葉かけができた。「あー」という言葉を用いながら口を開けるよう促すことで、成果が得られた。</p> <p>課題：「個の課題へのアプローチ」と「円滑なクラス運営」を並行して取り組める方法を考えていく。</p> <p>実践：座席の配置の検討</p>
まとめ	<p><u>全校研究③学年・クラスで検討</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 児童生徒の来年度の目標、課題等 	<p>トイレでの成功を増やす。</p>